



プログラムの概要

- 川でタモ網を使って魚を捕まえる。魚の感触を体感することで、生き物への興味が高まると同時に、川および自然の恵みや環境への理解も深まる。

関連する学習	・3年生—理科「身近な自然の観察」 ・3・4年生—道徳「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」 ・4年生—理科「季節と生物」 ・5年生—社会「農業や水産業について」 ・6年生—理科「生物と環境」
所要時間	45分×1
活動場所	流れのゆるやかな川

Keyword

キーワード

- 魚
- 生き物観察
- 環境
- 活動範囲



活動のねらい

- 魚捕りを通じて、身近な川の生き物や自然、環境について知る

川に魚が生活していることはだれもが知っているが、実際に川で魚を捕まえた経験のある子どもは少ない。ここでは、比較的簡単に扱えるタモ網を使って魚を捕まえる方法を紹介する。

どのような所に魚が潜んでいるのかを体感的に学ぶことで、生き物への興味が深まり、さらには、川や環境に対する理解につなげる。

準備するもの

○活動に必要な道具

- ・タモ網
- ・バケツ
- ・水槽
- ・図鑑
- ・ワークシート
(参考資料参照)
- ・筆記用具



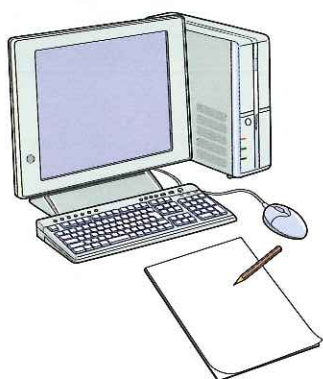
○野外で活動するための服装

- ・動きやすい服（体操服など）
- ・ライフジャケット
- ・リバーシューズ（運動靴でも可。ビーチサンダルのように脱げやすいはきものは不可）
- ・帽子
- ・タオル

○安全に活動するための道具

- ・救急箱
- ・スローロープ（必要に応じて用意）
- ・飲料水

活動準備



① 情報収集

- ・ホームページや書籍などから、水の生き物の情報を入手する。
- ・水の生き物についてのほか、体験活動を安全に実践するための基本的な準備や注意点、川や水辺に内在するさまざまな危険などを、書籍やインターネットなどを活用して学んでおく。
- ・活動を実施する川についての情報も同様に収集する。
- ・川の指導者のほか、漁業協同組合や市民団体などから魚類の専門家を探し、あらかじめ川の様子に関するヒアリングを行う。川の指導者は、「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」を通じて紹介してもらうことも可能である。
- ・場合によっては、これらの専門家に講師を依頼してもよい。

② 道具や装備の準備

- ・活動に必要な道具（タモ網やライフジャケットなど）を準備する。
- ・川での活動となるため、危険が少ないと感じてもライフジャケットは必ず着用するようにする。
- ・道具のほか、炎天下の活動では熱中症や脱水症状を引き起こす可能性があるため、日陰の場所を確保するとともに、飲料水の準備もしておく。

③ 活動場所の選定

- ・目的に合わせ、事前に採集場所を決めておく。
- ・深い場所や流れの複雑な場所は避けるようにする。
- ・活動場所は必ず事前に下見を行い、下見の結果に基づいて、安全を確保するためのスタッフ配置計画を行う。

④ その他

- ・事前に漁業協同組合や河川管理者などの関係機関に連絡を入れ、活動予定の報告をして了解を得ておく。
※川や湖沼では、漁業権が設定されている場合がある。
- ・活動場所が遠い場合には、アクセス方法を確認するとともに移動手段を確保する。
- ・活動当日の天気や河川情報の収集を行い、天気が悪い場合には延期や中止の判断をする。活動中も天候の変化や川の水位等の情報収集を、常に心がけることが重要である。



- ・魚を捕り始めると、子どもたちは夢中になるため、安全管理に十分留意する！
- ・あらかじめ活動範囲を決めておくことが望ましい。

活動内容

導入

- ・子どもに魚捕りをする事を伝え、「魚捕りをしたことがあるか」「どんな種類の魚がいると思うか」「何匹くらい捕れると思うか」などと問いかけ、興味を引く。

活動Ⅰ 道具の使い方や捕り方の説明

- ・ライフジャケットを着せさせ、正しく装着されているかを確認する。
- ・各自にタモ網を渡し、川の中での使い方（「がさがさ」ともいう）を説明する。

活動Ⅱ 魚を捕まえる



- ・川に入って魚を捕る。活動範囲を事前に伝えておき、子どもが活動範囲外に行かないよう大人を配置する。
- ・草が生い茂っている場所や、隠れやすい場所がある所に、魚が集まることを事前に伝えておく。
- ・魚を捕まえたら、水槽やバケツに入れる。透明な入れ物に入れると、魚の観察がしやすい。

魚の捕り方

- 水中の草が生い茂っている場所など、魚が隠れていそうな場所を探し、静かに近づく。
- 下流側にタモ網を置き、片足でその網を固定する。
- もう一方の足で、上流側から網の中へ魚を追い込む。
- 魚やエビなどが捕れているか、確認する。

活動Ⅲ 魚を調べる



- ・捕まえた魚を観察して分類し、図鑑などを活用し、魚の名前や特徴を調べる。
- ・名前を調べたら、ワークシートに記入する。時間があれば、体長を測ったり、スケッチしたりして、その魚の特徴を学ぶ。
- ・名前や特徴を調べたら、魚を川に戻す。

まとめ

どのような場所でどのような種類の魚が捕れたのかを簡単に発表させ、魚の形や色などが違うことに注目しながら、川にはいろいろな魚がいることを説明する。子どもたちは、川にたくさんの魚がいることに驚き、川への興味・関心も高まる。

発展



捕まえた魚を教室に持ち帰り、飼育する。毎日の活動日記をとらせることで、生き物への興味が高まっていく。

漁業の授業などに発展させ、魚を捕るための漁法や漁師の人々の仕事の学習に結びつけることもできる。

参考情報

- 川に生息する生物の情報 ・河川水辺の国勢調査結果（国土交通省）（<http://www3.river.go.jp/>）
- 調査方法などの情報 ・川の生きものを調べよう（冊子・下敷）（河川環境管理財団）
学習教材一覧（冊子はダウンロードできます）（<http://www.kasen.or.jp/work/result05.html>）
- 川の水位や天気に関する情報 ・川の防災情報（国土交通省）（<http://www.river.go.jp/>）
- 川の指導者に関する相談先 ・NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）（<http://www.rac.gr.jp/>）
- ライフジャケットの貸し出し・購入に関する相談先
- ・子どもの水辺サポートセンター（<http://www.mizube-support-center.org/top.html>）
- ・NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）（<http://www.rac.gr.jp/>）

魚調べ ワークシート		
年 組	名 前	
観察した場所		
観察した日	月 日 天候（ ）	

魚の名前は？		魚の絵をかこう
見つけた場所		
体のとくちょう		
体の色		
見つけた数		
泳ぎ方		
備考		

魚の名前は？		魚の絵をかこう
見つけた場所		
体のとくちょう		
体の色		
見つけた数		
泳ぎ方		
備考		

気がついたこと